第２期京都大学 SDGs リーダー育成プログラム成果発表会

全国から選抜された本プログラムの受講生 53 名 15 グループが、昨年の６月からオンラインゼミや京北地域での合宿、フィールドワークなどの活動を経て学んだことを活かして、社会課題の解決法・未来の社会デザインなど社会課題について解決する方法や取り組みを企画しました。未来を担う世代が「SDGs 自分ごと化」について発表します。

【発表要旨】

「メタバースと教育」

SH22（正田・中野・鎌倉）

私たちの班はメタバースについて発表しようと考えています。メタバースとはインターネット上で提供されている仮想空間や仮想現実の世界の事です。これを用いる目的は日本の中にある都市と地方の教育格差の解消です。また、未来のインターネットと呼ばれるメタバースの幅広い可能性に注目し、メタバースによる環境問題学習の可能性について考えていこうと思います。

「小水力発電の普及～再生可能エネルギーで持続可能な街づくり～」

AK*EVO［アクエヴォ］（廣瀬，穴水，小松）

私たちは再生可能エネルギー中心の暮らしを作るために再生可能エネルギーの中でも特に山梨県の地形にあった小水力発電に着目して活動を行っています。現在は小水力発電を地域住民にとって身近なものとするために、小水力発電を用いた街灯、"小松くん３号"を作っています。最終的には、今年度中に企業や専門家等に協力して頂いて小松くんを改良し、山梨県の川に設置しようと考えています。

「The game of tree life」

山プロ（堀川、関、鎌谷、出野）

私たちは、今までの活動を通して林業従事者を増やしたいと思い、ボードゲームを通じてそれに貢献できるのではと考えました。対象者は小学生からで、家族でも楽しめる内容にしたいです。ゲームを通じて、林業の意義、森林管理の大切さ、林業に関わる職業、それらに就くメリット・デメリットなどを伝えたいと思っています。現時点での最終目標は株式会社バンソウさんにご協力いただき、ボードゲームを商品化することです。

「食べる森林浴」

ヘルスギ［北山杉の”スギ”と健康の意味の”ヘルス”（堤、松原、下條、冨成、村尾）

私たちは京北での林業体験を通して林業の担い手不足という深刻な問題を解決するために、林業をより身近なものにしたいと考えた。そこで私たちは新たな木の利用方法として北山杉のパウダーを食品に混ぜて食べる"木食"を提案し、それを普及させたいと考えている。北山杉のリラックス効果、血脈効果、安眠効果を生かして食品として広げ、人々の健康に繋げることを最終的な目標として活動を進める。

「過疎地域の活性化」

五林（柿木田・中澤・西村・小西）

私達のチームが提案するのは、植樹ビジネスです。森テーマです。客の依頼で、企業が活用されていない里山を整備して、木を植えます 。このような活動はイベントが多いのですが、継続的なものとし、活性化させます。 これのメリットは、里山が整備されることによって、野生動物の環境が整う・緑のダムとしての効果が生まれる・山全体が明るくなることが、人の生活を守ります。さらに、大きな経済効果を生み出すことが期待されます。個人経営から企業経営に変化することで、機械を入れる、販路を確立出来るため、利益増大、収入安定化に繋がれば良いと考えます。

「2040 年の日本」

チーム西日本（佐藤、小幡、石川）

2040 年という、SDGs の指定範囲が外れた後の日本社会で人々はどのように暮らしているのか想像し、またそこで発生する問題や理想に対し、現代で何ができるか考える企画です。2040 年の社会を、モデルシティを作る／未来人の行動計画表を作る／などして具体的に想像し、そこで発生する問題や理想に対してできることを発表する予定です。

「北桑田高校と SDGs」

僕らは北桑田高校生（小野、梶谷、林、長瀬）

私たちは、メンバーが通う北桑田高校について発表したいと思っています。このプログラムの拠点となっている京北にある北桑田高校では、京都フォレスト科を筆頭に SDG’s と関わりながら日々の学校生活を送っています。森林の管理から加工、普通科でも地域の歴史を学習し、地域の活性化に繋がるような活動も行っています。そんな中山間地域に存在する私たちの学校の取り組みと、この京北地域の活性化のために高校生が考えることを発表出来たらなと思っています。

家庭から始まる循環サイクル

make compost（村山、池本、宮崎）

コンポスターを家庭用に改良したタッパーコンポスターをセブンさんと共同で開発し、キットのような形で販売をします。また、コンポスターで作った堆肥の活用法がない、という問題の解消のために家庭と農家の中継地点としてセブンさんにご協力いただき、活用をしていきたいと考えています。また、その活動をするセブンさんにとっての利点はセブンさんの農場で科学肥料などを使用していないというイメージアップに繋がります。また、家庭側の利点としてはセブンさんに持ち込んだ堆肥の量に対してポイントをもらえるなどの仕組みがあると考えました。

「未来のコンビニ」

Next コンビニーズ（于、貫井、藤山、古賀）

私たちは未来のコンビニを自分たちでプロデュースしたいと思っています。店舗の設備から発電方法など、あらゆるものを SDGs と絡め、コンビニの新しい在り方やサービスを提案したいです。また、店舗を 2 階建てにし、新たな活用法も考えています。最終的には、2025 年の大阪万博で出展したいと考えています。身近な存在であるコンビニに SDGs を取り入れることで、多くの方々に興味を持ってもらいたいです。

「コンビニの食品ロスを見える化しよう」

食ロス三銃士（大野、和田、粟田）

もうすぐ廃棄されてしまう食品の種類と消費期限、そのおすすめポイントを一緒に記載したボードをコンビニ店頭に設置します。食品ロスを「見える化」しつつ、おすすめポイントを書くことでお客さんに積極的に食品を手に取ってもらうことができると考えています。これにより、売れ残って廃棄されてしまう食品ロス量を減らすことで SDGs の達成に貢献することができるのではないかと考えています。

「中山間地域の自立した運営にむけて」

はばたんず（津原、樋口、松本）

私たちは中山間地域を活性化させるために、その地域内の資源を活かして自立した地域を目指す必要があると考えました。改善できる点は多くあると思いますがその中でも医療に注目しました。最終成果発表では中山間地域版 UHC(RHC)をテーマに発表を予定しています。その地域で住民が健康に生活し続けるため、主に医療機関へのアクセス、健康増進、多様な患者への対応、の 3 点に着目し、改善策を提案します。

「FSC・MSC の活動内容、認証の意味を多くの人に知ってもらう」

USC：Uunknown, Spread, Council（梅澤、佐藤、鳥田、湯本）

FSC・MSC 認証は労働者や森林や海を守り、持続可能な社会に必要な制度であるにも関わらず、その認知度は高いとは言えない。そこで私たちはこれらの制度やマークの認知の向上を目的として、絵本を用いた普及を考えた。絵本を用いることで、次世代を担っていく子供やその保護者を対象に認知度を高めていくことが可能になる。今回の発表では FSC・MSC の普及を目指した私たちのオリジナルストーリーを紹介したい。セブン&アイホールディングスが発行している広報誌「ボノロン」への掲載を最終的な目標としている。

「教育の発展のために出来ること」

Edu-designer(前田、由良、田代、加藤、岩男)

家庭の貧しさなどの理由により世界だけでなく、日本でも学校に通うことのできない子供達がいる現状にある。日本には、放課後学校というものが存在しており、その認知度を向上させるとともに、学校に通うことのできない子ども達へのサポート方法を考える。また、その先に SDGs や社会問題など様々な課題解決に向けての授業を教育の場で行い、ディスカッション授業への積極的な参加など教育を通して SDGs に働きかける事のできるアクションプランを提案する。

「SEGs（Space Environment Goals）」

スペクション：スペース×アクション（宮野、武田、倉田、遠藤、佐藤）

私たちは宇宙✕SDGs をテーマにした。なかでも、宇宙の環境問題を重要視し、宇宙開発が自国の発展のみに尽くし環境問題を考慮せずに他国との競争の場になっていることに、地球上の SDGs にも関連する大きな危機感を感じた。そこで、私たちは中高生の枠を超え年齢制限なしで実際に宇宙開発の問題点について議論してもらう会議を開催することにした。会議前半では、宇宙物理をご専門とされている京都府立芸術大学の磯部先生にご登壇していただき、さまざまな知識を踏まえた上で議論する。さまざまな立場の人が集まってディスカッションする機会はなかなかないので、各グループのアイディアがとても興味深くなるだろう。会議後に私たちがまとめるレポートもぜひともたくさんの人に読んでもらいたい。

京北スマートシティー構想「ルカ計画」水素とロボットで人が集まる町づくり

YONESCO（米倉）

「京北活性化」（人口減少の課題改善）をテーマに纏めました。１１月３０日政府発表値で、京都市は、全国１４１９市町村中、人口減少の大きい市町村の １５位（－１１４６０人）です。改善のためには、従来の京北の良さ＋アルファ、東京・福岡・大阪以上に、便利で、楽しく、若者達があこがれる京北になる必要があります。そのためのキーワード、①ハイドロゲン、②AI ロボット、③デジタル、④ダイバーシティー、⑤コネクション、を掲げて纏めました。